TCVV 白書 第 20 号 通巻 23 号 2018 年 8 月 11 日発行（不定期発行） ISSN 2185-9043

秘密結社
声優はVisualに出るな！会議
TCVV
http://www.tcvv.org/

TCVV白書

調査記事:: 声優ファンクラブにおける相違点
連載記事:: 『声優アワード』Watch

The TCVV Whitepaper 2 0 1 8 N O . 20

声優は Visual に出るな！宣言 Ver1.11

声優は Visual に出るな会議 決議第 00000 号

声優は映画俳優・舞台俳優に比べ声だけで勝負をするという過酷な生業である。
映画・舞台俳優は身振り手振りが付加されるので視覚に訴えることが効く。
が、声優はそうは行かない。だからこそ高度な演技力が必要とされるのではないだろうか。
現在、第四次声優ブームと言われているそうだが、何か違和感を感じずにはいられない。
最近の「声優」と呼ばれる人々は Visual、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか？
今やマーケティングでメディアを十分に活用すれば、そこら辺のお姉ちゃんでさえも CD をあっという間に売ってしまう。この状況を「沈黙のミリオンセラー」[*1]とは良く言ったものである。
「声優」自体が今やメディア戦略によって商品になってしまったと思う。
この戦略は聴衆を気がつかない間に購買者に変えてしまう巧みなシステムだと考える。
しかし、このシステムは本来の価値。つまり「声のプロフェッショナル」としての声優を正当に評価していないものであると言える。

舞台俳優の中には決して Visual に耐えられる人ばかりではない。
が、そのような人が舞台に立てるのは、人を引き付ける演技力を持っているためであると考える。
一方、声優の質は低下している。これは最近のアニメーションは高度な演技力を必要としないものが多くなっているからといえよう。そうなれば声優の質が低下するのは至極当然のことである。[*2]
従って、高度な演技を必要とする作品では声優の能力の限界が露呈してしまう。
例えば、劇場版新世紀エヴァンゲリオンの最後の最後はアスカのほんの一言で終わる。[*3]
しかし、この台詞は始めに用意してあったものとは違うものであったようだ。
本来は「あんたばか？」であったようだった。が、声優の力量不足のため、結局「気持ち悪い。」へと変更を余儀なくされた。
完全に声優が役に負けてしまっていたのである。
結果、作品は中途半端に仕上がってしまい損害を被ったのは我々聴衆者である。

声優が新境地を求めるのもいい。しかし、声優も役者であるのだからまず足場を固めてから進出するのが筋と考える。
我々は、健全な日本アニメ・マンガの質を守るため、ここに「声優は Visual に出るな！」を宣言する。

[*1] 誰もが知っている訳でもないのに 100 万枚以上売ったレコード・CD のこと。一昔前は 100 万枚といったら大部分の人がその曲を知っていた。

[*2] 劇場版 Evangelion のパンフレット（春、夏ともに）にて清川元夢氏はプロ意識なき声優への批判とも解釈できる発言をしている。これは非常に勇気ある発言と言える。（普通はこういう事は映画のパンフでは言わないであろう。）

[*3] 実は Evangelion はヲタク（庵野氏）によるヲタク批判であったことはあまり報じられていない。ヲタクの皆様はそのメッセージを受け取れなかったとのこと。（レイとシンジが列車に乗っていて会話をするあのシーンが批判部分とされている）

目次

巻頭言 4

1 第 20 回 TCVV 短期アニタレ観測調査 5
- 1.1 TCVV 短観概要 5
- 1.2 調査期間 5
- 1.3 集計 6
- 1.4 傾向分析 7
- 1.5 際立つ状況 8
- 1.6 気になる動き 8
- 1.7 定点観測 9
- 1.8 TCVV 短観集計方法の一部見直しについて 9

2 声優ファンクラブにおける相違点 10
- 2.1 王国と公国 10
- 2.2 年会費や特典等について比較してみる 10
- 2.3 考察 10
- 2.4 まとめ 12

3 『声優アワード』Watch Vol.7 13
- 3.1 酷すぎる今年の声優アワード 13
- 3.2 人材不足なのか 13
- 3.3 次回第 13 回ではさらに酷いことになりそう 14

4 声優システム論 13-いま求められる声優像- 15

5 Chairman's free talk -議長放談- 18

編集後記 19

巻頭言

声優は Visual に出るな!会議 議長 萱沼真一

二極化する声のシゴト

アイドル声優の増加が止まらない。
クール毎に毎回あるアイドルアニメの影響でビジネスモデルが確立しつつある状況下、我々は諦めにも似た心境である。

TCVV では設立当初、**アニメタレント**という言葉を多用してきた。
アニメタレントとは**アニメに軸足をおいた声優っぽいことをする芸能人**であり声優と区別するために用いた。その後、多くの声優が歌手活動や写真集を出すことを始めてしまったためアニメタレントという言葉も TCVV ではあまり使用しなくなった。ところが前述のように昨今のアイドルアニメブームにより、新しい形のアニメタレントが増えつつあると思う。

我々は 20 年間、声優を見てきたがアイドル声優と呼ばれて来た人の残存率は極めて低い。
そんな状況なのか、今や割り切って短期決戦で声の仕事をしようと考えている者たちが増えていると思う。
別の言い方をすると声の商売を長く活動しようと思っている人は少ないのではないかと考える。
つまり、芸を極めて一生ものにする人間と、そうではなく最初から短期的な活動で終えてしまおうとする人たちに二極化しているように見えるのだ。

二極化したところで従来の声優を目指す人間も多数おり作品品質が直ちに低下するとは思えないが、アニメタレントの腰掛けのために作品やリソースがが使われると思うと

非常に腹立たしい。

2，3 年でいなくなるアニメタレントに目くじらを立てる必要はあるのかと思われるが、消費されたリソースは返ってこないのだ。

我々は数々の作品を観て声だけで演技する声優の凄さを見てきた。泣きの演技だけで鳥肌が立ってしまった時の感動は忘れられない。可愛さを売りにする者ではなく声の演技だけで心に訴える力を持つ人を我々は「声優」と呼びたい。
棒演技な上、腰掛けレベルの仕事しかしないアイドルに「声優でございます」と言われ、さらにリソースも消費されるとなると無性に腹立たしくもなる。

世の趨勢であれば二極化するのは仕方ない。が、しかしロクな演技もできず作品を破壊するアイドル声優がいれば

我々は徹底的に糾弾する。

我々はアイドルが見たい訳ではない。聴くだけで身震いする凄まじい演技をする『役者』を望んでいるのだ。

調査記事

1　第 20 回 TCVV 短期アニタレ観測調査

TCVV 情報管理部 調査課 短観担当

1.1　TCVV 短観概要

経済指標を示す「日銀短観（日本銀行短期経済観測調査)」のようにある期間に区切りアニメタレントの出演数を調査することにより現状の動向を分析する。
データは「しょぼいカレンダー[*4]」から TCVV の算出基準[*5]により機械的に抽出したものである。

集計方法は新規出演数を四半期毎に集計し合算した後、4 で除することで四半期当たりの新規出演数の平均値を算出する。この値を「短期的な活性度（単純活性度)』と定義する。

ただし、人間は忘却をする性質があるので『単純活性度』だけでは感覚に合致しないと考える。最近の出演した方がより印象が深い。そこで人間の感覚を取り入れるため過去を割り引いて考えた『感覚活性度』も同時に算出する。
具体的な算出方法は 4Q 前は出演数に 0.25 を、同様に 3Q 前は 0.5、2Q 前は 0.75 を乗ずることで重み付けし人間の感覚により近い活性度を算出する。
活性度が 1.00 以上ということはクオータ毎に平均して新規 1 本出ていることになりコンスタントに新規出演していると言える。言い変えれば『常に新しい状態』である。

順位に関しては感覚活性度を優先とし、感覚活性度が同値の場合は単純活性度で比較した。また調査結果については誌面を圧迫するため男女とも上位 20 名までの掲載とした。

(標本数 女性 258 名)

1.2　調査期間

西暦 2017 年 10 月〜2018 年 7 月

本調査は十分な調査をしていますが内容を保証するものではありません。

[*4] http://cal.syoboi.jp/
[*5] 無料放送の TVA レギュラ出演のみで単発出演は除く

1.3 集計

1.3.1 女性編

2018 年 TCVV 短期アニタレ観測調査

順位	氏名	2018/3Q	2018/2Q	2018/1Q	2017/4Q	単純活性度	感覚活性度
1	佐倉綾音	3	9	5	3	5.00	3.25
2	M・A・O	5	4	6	4	4.75	3.00
3	茅野愛衣	3	7	5	4	4.75	2.94
4	悠木碧	3	8	4	3	4.50	2.94
5	花澤香菜	3	6	2	4	3.75	2.38
6	小松未可子	6	2	2	4	3.50	2.38
6	日笠陽子	4	4	4	2	3.50	2.38
8	釘宮理恵	2	7	1	6	4.00	2.31
9	洲崎綾	3	6	1	2	3.00	2.13
10	赤崎千夏	2	6	2	3	3.25	2.06
11	内田真礼	2	4	4	4	3.50	2.00
11	加隈亜衣	2	5	2	5	3.50	2.00
13	上坂すみれ	4	2	2	4	3.00	1.88
14	佐藤利奈	4	3	1	3	2.75	1.88
14	花守ゆみり	5	1	2	3	2.75	1.88
16	東山奈央	3	4	2	1	2.50	1.81
17	瀬戸麻沙美	3	3	3	1	2.50	1.75
18	上田麗奈	0	5	4	4	3.25	1.69
19	小澤亜李	2	4	2	3	2.75	1.69
20	小倉唯	3	2	3	2	3.00	1.63

順位	氏名	2018/3Q	2018/2Q	2018/1Q	2017/4Q	単純活性度	感覚活性度
21	能登麻美子	1	4	2	5	3.00	1.56
21	水瀬いのり	1	3	4	4	3.00	1.56
23	種崎敦美	3	2	1	5	2.75	1.56
24	伊藤静	2	4	2	1	2.25	1.56
24	堀江由衣	3	3	1	2	2.25	1.56
24	田村ゆかり	1	5	3	0	2.25	1.56
24	高橋李依	3	2	3	1	2.25	1.56
28	沼倉愛美	2	2	4	2	2.50	1.50
28	鬼頭明里	2	3	2	3	2.50	1.50
28	本渡楓	1	3	5	1	2.50	1.50
31	早見沙織	2	1	4	4	2.75	1.44
32	内山夕実	1	3	4	2	2.50	1.44
33	小林ゆう	2	4	0	3	2.25	1.44
33	竹達彩奈	2	2	4	1	2.25	1.44
33	日高里奈	1	4	3	1	2.25	1.44
36	明坂聡美	3	2	2	1	2.00	1.44
37	喜多村英里	1	3	3	3	2.50	1.38
38	Lynn	2	2	3	2	2.25	1.38
38	遠藤綾	2	3	1	3	2.25	1.38
40	三森すずこ	1	5	1	1	2.00	1.38
40	井上喜久子	3	2	1	2	2.00	1.38

1.4 傾向分析

前回調査より大幅変動あり。

佐倉綾音が 1 位、M.A.O が 2 位。近年佐倉は着実に実績を延しておりアイムの顔と呼べるレヴェルまでになっているので納得性はあるかと思う。

M.A.O に関しても近年出演数は延びているものの存在感があまりない。佐倉と同一レヴェルとは思えないくらいの存在感の無さである。

今回、田村ゆかりが久々に上位に来ているのが特徴。今年になって主役級が多いためと思われる。

また、種崎敦美が前回に引き続き好調。人気声優の仲間入りしてきた感がある。

一方、前回調査で破竹の勢いだった水瀬いのりが大幅ダウンとなっている。これが踊り場的なものなのか、これが実力値なのか次回調査で確認する必要がある。同じキングの上坂すみれもダウンしておりキングレコードの呪い発動か。なお、茅野愛衣、花澤香菜、日笠陽子は引き続き高位安定である。ここ数年でデビューした新人が着実に上位に喰い込んできている傾向にある。

1.5　際立つ状況

1.5.1　佐倉綾音

前回調査から大幅アップ。1 月から新幹線変形ロボ シンカリオンで子供向に番組にも出演しており全盛を極めて来た感がある。

1.5.2　M.A.O

色々な声が出せる所為か特徴点が捕みにくく (ステルス性能が高く) 存在感がなく、エンディングを見るまで出ていることに気が付かないことが多い。器用貧乏な傾向がある。ただ演技も悪くなくクセがないので使い勝手は非常に良いと考える。

1.5.3　小松未可子

キングレコードから戦力外通告された後、激減するかと思いきや何気に仕事に切れ目が無く絶好調。キングから切られたあと、5 分-15 分の短編アニメを中心に出ていたが本年 7 月ぐらいから、はねバド!や NHK の 30 分アニメにも出演するようになった。本人が好きな歌手業も出来て何故かキング時代よりも充実している模様。

1.5.4　花守ゆみり

前回、圏外だったのが 12 位と大躍進。ここ最近の新人の中では今回調査で一番の上位者。知名度も段々と上ってきている様子である。

1.6　気になる動き

1. 島袋美由利

40 位内には不在であるが 2018 年 7 月期に主役級 3 本、その他 1 本という新人とは思えない出演量である。**大沢事務所が久々に凄いブッ込み方をしてきたな**という感想を持った。
大沢事務所の力の入れ方が窺い知れる。声の演じ分けもかなりのレヴェルで出来るので、これから大沢事務所の主砲になりそうである。

2. 種崎敦美

前回調査より若干の順位上昇。着々と足場を固めている様子が窺える。

3. 高橋李依

新人の中ではかなりの知名度を誇るが前回調査では 95 位とかなり低位だった。しかし、今回調査では 18 位と大幅躍進。イヤホンズの中では一番の出世頭となっている。

4. 鬼頭明里

前回調査から若干のアップ。最近の新人の中でも上位部類ではあるが声の幅が少なく既に役が固定化 (勝ち気な女性) しているのことが今後のネックになりそう。

5. ラブライブ勢

μ's 組はブシロード/響の資本力で支えられている三森すず子以外は軒並に低下している。またサンシャイン組については一部を除きラブライブ以外では軒並ゼロ更新。そんな中、鈴木愛菜だけは大健闘している。久

保ユリカ的な存在になるかも知れないが、一本調子な声質のため今後の活躍は厳しいと予想する。

1.7　定点観測

今回から定点観測点を一部変更した。
(廃止:平野綾、能登麻美子) (追加:トライセイル、花澤香菜)

1. 花澤香菜 (7 位→ 5 位)
前回調査より若干順位を上げている。相変わらず高位安定で推移している。
2. 堀江由衣 (49 位→ 24 位)
前回調査では低位だったが今回調査では大幅上昇。主役級はほぼ無いものの脇で着実に出演をしている。
3. 田村ゆかり (56 位→ 24 位)
相変わらずメンタル面での不安定さ見られるが主役級をこなしておりベテランの風格が出てきた。
4. スフィア（高垣彩陽、豊崎愛生、戸松遥、寿美菜子）
動向が危ぶまれ低空飛行が続いていたが戸松遥のトップを始め各メンバーとも前回より出演数が増えている。
5. トライセイル（麻倉もも、雨宮天、夏川椎奈)
雨宮天については非常に多く出演しているものの、麻倉もも、夏川椎菜については 2018 年はアニメ出演ゼロ更新が続いている。今後の動向が危ぶまれる。
6. 野水伊織 (112 位→ 201 位)
本来なら観測点としては廃止すべきものであるがプロダクション・エースの定点枠として残した。
新規ゼロ。プロダクション・エース全体的に大幅下落している。

1.8　TCVV 短観集計方法の一部見直しについて

これまで長年に亘って集計してきた TCVV 短観であるが短期的な傾向を知るモノサシとしては一定の指標として使用できるものの以前から問題点が指摘されている。
一番の問題は主役級ではなくても出演するだけでカウントされるので主役級に出演してもしても加点されず、例えば昨今、売出し中の新人が主役級を演じても活躍が把握しにくい問題点がある。
これを是正するため次回から集計方式を一部見直しすることにした。

調査記事

2　声優ファンクラブにおける相違点

TCVV 情報管理部 捜査課

2.1　王国と公国

昨今、声優、特に女性声優におけるファンクラブが数多く存在している。その中でも有名なのが田村ゆかりファンクラブ、通称「ゆかり王国」[*6]であろう。設立（建国?）も 2004 年 12 月と今年で 14 年目と古い方と思われる。ファンクラブを「国」と称しているのは他にもいるが、その中でも竹達彩奈が 2017 年 4 月に今までのファンクラブを「公国」[*7]としてリニューアルした際、一部から「ゆかり王国のパクリ wwwww」などと言われた。

そもそも王国と公国の違いは何であろうか?Wiki ペディアによるとこうである。

> 「王国（おうこく）は、君主制の国家のうち、国王を元首とする国家を指す。」[*8]

> 「公国（こうこく）は、「公」すなわち貴族を君主として有する国。「王国」（Kingdom）が一般に「国王」を君主として有するのに対し、公国は「公」を君主として有する。英語の duchy（duke が治める国、領地）と principality（Princedom, prince が治める国、領地）が「公国」と訳される。」[*9]

まぁファンクラブである事であるし、とりあえず両国へ潜入（両ファンクラブへ入会）して違いを比較してみようと思う。

2.2　年会費や特典等について比較してみる

2017 年 4 月から 2018 年 3 月までの期間、両国へ潜入（入会）して、特典やイベント等の比較を行ってみた。その比較表が 1 となる。

2.3　考察

両国とも大差は無い様に思えるが、「ゆかり王国」は紙媒体による会報の発行が定期的になされているのが特徴である。この辺り 80 年台のアイドルを意識している様にも思え田村ゆかりの年齢から察すと... げふんげふん

[*6] https://www.mellowpretty.com/
[*7] https://ayanakoukoku.com/
[*8] https://ja.wikipedia.org/wiki/王国
[*9] https://ja.wikipedia.org/wiki/公国

表 1　両国の比較表

活動や特典内容等	ゆかり王国	あやな公国
正式名称	Mellow Pretty	あやな公国
建国	2001 年 04 月	2017 年 04 月
年会費	4,000 円/年	400 円/月
入会金	1,000 円	0 円（無し）
会員証	あり	あり
国歌	めろ〜んのテーマ	apple*colorful*princess
メイルマガジン	あり	あり
紙媒体による会報	あり	なし
ファンクラブイベント	あり	あり
ライブ先行	あり	あり
オリジナルグッズ	あり	あり

2.3.1　メイルマガジン

電子メイルによる定期的なお知らせは「あやな公国」は概ね週に 2 回程度配信されているが、「ゆかり王国」は週に数回の時もあれば無い時もありやや不定期であり発行間隔に違いがある。もっとも内容についてはほぼテンプレと言っていい内容である。そういえば、「あやな公国」からは「お誕生日おめでとう」メイルが届いたが「ゆかり王国」からは届かなかった。

2.3.2　年会費

上納金（年会費）については入会金の有無や、年払いと月払いといった違いはあるものの月平均または年平均に換算するとどちらも似たような価格帯である。また、「あやな公国」はクレジットカードのみの決済方法を採用しており、退会の手続きをしなければ毎月ごと自動的に更新され半永久的に搾り取られるという確実な集金システムになっている。

2.3.3　会員証

両方ともプラスチック製のカード型。「ゆかり王国」は会員番号と有効期限が印刷されており、反対面には本人の写真というデザインになっている。一方、「あやな公国」は会員番号が刻印されているだけのデザインとなっている。（図 1）

また両国の web サイトには会員専用のページが用意されており会員は登録時のメールアドレス及びパスワードを入力する事により専用ページを閲覧する事が出来る。

[1] ゆかり王国会員証（表）

[2] ゆかり王国会員証（裏）

[3] あやな公国会員証（表）

[4] あやな公国会員証（裏）

図 1　会員証の現物比較

2.3.4　ファンクラブイベント

2017 年 6 月に両国のイベントが 2 週続けてあったので申込みをしたところ、「ゆかり王国」当選、「あやな公国」落選で残念ながら比較する事ができなかった。会場サイズ[*10][*11]を考えると両方当選は難しかったのかも...

チケットの確保が出来たので実際にファンクラブイベントへ潜入したものの席は最後尾の一番端っこという席だった。まぁ潜入捜査なのである意味良席???

そしてイベント自体の感想は一言、

新参者なので全く解らない　orz

新参者、というよりもこちらは潜入捜査している訳なので土下座とか解らんよ...　（滝汗）

ライブについては両ファンクラブとも先行抽選があったものの、ライブ開催当日と捜査官の予定が合わず潜入する事が出来なかった。

2.4　まとめ

以上、数ある女性声優のファンクラブの中から「ゆかり王国」と「あやな公国」へ潜入しその違いを簡単に比較し、ファンクラブというものの活動内容は何処も同じ様な内容である事が解った。

両方のファンクラブイベントに同時期に参加して比較すれば別の視点から感想が持てたかもしれないが、こればかりは抽選の運次第なので仕方がない。しかしながら唯一潜入する事が出来た「ゆかり王国」ファンクラブイベントは俗に言う「臣民」の忠誠心（曲に対するコールの一体感）が素晴らし過ぎてかなりのお腹いっぱいの消化不良を起こしてしまった。「あやな公国」のファンクラブイベントへも是非とも潜入して姫に対する忠誠心を見てみたいものである。

[*10] あやな公国：2017 年 06 月 17 日 山野ホール

[*11] ゆかり王国：2017 年 06 月 25 日 東京国際フォーラム

連載記事

3　『声優アワード』Watch Vol.7

-末期症状の声優アワード-

TCVV 情報管理部 調査課 声優アワード担当

3.1　酷すぎる今年の声優アワード

声優アワード。最早、アニメファン、声優ファンの誰にも注目されておらず、気が付いたら発表されていたという感じで梅雨入りか台風発生ぐらい形骸化している顕彰である。悪い意味で空気化している。

賞とは授ける側の傲慢であり自己満足に終始するとも言われているが、それを置いておいても今年の声優アワードは酷かった。

特に新人女優賞が酷すぎた。受賞者は七瀬彩夏と福緒唯である。

七瀬彩夏はサクラクエストでメインを張ったんで理解できる。

問題は福緒唯の方だ。発表されても『誰それ？』という感想を持った人が大多数かと思う。

それもそのハズ。福緒唯は単独で主演を張ったことがないのだ。『スマホ太郎』と揶揄された「異世界はスマートフォンとともに。」にて複数いるモブキャラに近いヒロインをやっただけで声質は量産型声優そのものだ。

寧ろ A 応 P の元メンバーと言った方が通りが良いかと思う。

声優アワードは『印象に残った声優云々』のハズだが単独主演をしたこともない、ほぼ無名の人間が新人賞受賞。一体、何が評価されて新人賞なのか理解に苦しむ。

経歴や実力から言っても本渡楓の受賞が妥当と思った諸兄も多いと聴いたし、確かにその通りだと思う。

しかも、第 1 回での平野綾の受賞で物議があった新人賞の 5 年ルールがまだ有効であれば、さらに該当者は増えるハズだ。

もしどうしても A 応 P から出す必要性があったのなら広瀬ゆうきの方が実績、声質ともまだマシだった。

さらに大西沙織、佐倉綾音の助演女優賞とパーソナリティ賞のダブル受賞は取って付けたようなやっつけ感が半端ない。

第 5 回の大失態以来、多少は改善したと思われてきたが、まさかこんな酷いことになるとは予想だにしなかった。

3.2　人材不足なのか

もっともこの問題においては声優個人を責めることはできない。声優本人にはどうしょうもないことだ。

近年、声優希望者はもの凄いことになっており、実際毎年新人がデビューしている。母数は確実に増えているハズなのに無名の新人が受賞とかどう考えてもおかしい。人材不足ということでは無いと思う。

単に大手事務所が声優アワードを未だに嫌っているだけだ。

もっと評価できる者はいるはずだが例によってまた辞退が続出したと考えられる。

いずれにせよ声優アワードにはネタ切れ感が滲みでている。責められるべきは実行委員会の腑甲斐なさである。

3.3　次回第 13 回ではさらに酷いことになりそう

　こんなロクでもない顕彰なんてやめちまえと思った矢先、起死回生の策なのか去る 7 月 17 日に実行委員会は新たに 4 部門が新設すると言ってきたのだ。これにより更に状況を悪化される動きが出てきそうだ。
特に MVS(MostValuable Seiyu) は曲者となりそう。投票要件は『たったひとつ、とにかくあなたが、今年最も活躍したと思う「声優」であることだけ!』というから混迷は想像に難くない。
『日本中から集まる票を MVS に集約し、一番票を多く集めた声優へ、「今年度、最も活躍した声優」として賞をお贈りします』って過去、神谷浩史が連続して取った最多得票賞と何が違うのか。アレの二の舞になるだけではないか。
このような小手先で延命をはかる声優アワードは最早、末期癌と同じ。早くやめてしまえばいい。だって誰も得をしていないのだから。
　どうしても声優アワードを続けるのであれば TCVV が以前から提言している通り、完全機械式で決定した方がいい。
そして、その算出は声優業界とは全く関係ない IT 企業がやればいいし、その役割は google が適任だ。
google であれば技術力はもちろん、その強大な力により声優業界から圧力がかかっても『蛙の面にションベン』ぐらいの程度でけちらせると思う。
そして表彰するのではなくランキング発表するだけにする。
表彰をするから関係各所との調整が必要になり面倒なことになる。ただのランキング発表であれば調整など必要はない。
あと声優アワードを模倣した『事務所忖度賞』なんても皮肉が効いてアリかと思う。
　しかも、世界的企業である google が発表した声優ランキングである。業界も否応なく注視せざる得なであろう。
権威に弱い日本人の特性を突いた作戦である。たまには権威に乗っかのも悪くはないと思う。
これぞ TCVV を始め声優ファンが望んでいた『真の声優アワード』になるのではないか。
　如何であろうか。声優アワード実行委員会には是非、本案を採用してもらいたいと思う。
本案を採用して頂いた際にはアイデア料は要りません。声優焼肉を企画して頂ければ結構ですよ。

連載記事

4　声優システム論 13-いま求められる声優像-

TCVV 議長

声優システム論とは

現代声優はアニメや洋画に声を当てるだけの存在ではなく社会や経済にも影響を与える存在になり、その動きは一昔前の古典的な声優観では説明出来無い。
そこで現代声優の振舞いを複雑系として捉えることを考え、この系を『声優システム』と名付けた。[*12]
本論は『声優システム』を様々な角度から考察するものである。

1. はじめに

2.「ISLAND」問題を考える

TV アニメ作品「ISLAND」で村川梨衣がやらかした。
村川といえば、のんのんびよりの一条蛍や新幹線変形ロボ シンカリオンの大門山ツラヌキというように全く違う声でキャラを演じ分けるできる大変素晴しい役者で演技力は文句ないと思う。
しかし、「ISLAND」で村川梨衣の降板が伝えられた。
これに対して所属事務所である俳協から『不始末』という文言を含む謝罪文書が出た。
通常、こういった揉め事であればもっとマイルドな表現で文書が出るところ、今回はこのような強い表現になっており一方的に俳協側が悪いことになっている。俳協側が制作側に対して全面的に降伏した形となっており相当やらかしたことが窺える。交代後は同じ俳協の山村響である。同じ事務所から交代要因が出たことから事務所側と制作サイドが仲が悪くなったということではない。つまり村川が何かやったとしか考えられない。
制作サイドも当初は俳協側 (おそらく村川) に歩み寄っていたようだがそれも限界となり制作側が諦めたとのことだ。
ここから先は想像の域を越えないが、一介の声優が演出に口出しをしたのかもしれない。その結果、作品を壊す一歩手前だったのかと。
声優が演技について研究し改善するのは良いことである。しかし、原作を改変するのは御法度だ。それは棒演技で作品を台無しにするのと同義である。村川が奢り昂ったのかもしれない。余程、演技に自信があったのかも知れないが、『驕る平家は久しからず』である。干されないことを祈るしかない。
今回は制作サイドが初心を貫いたが、もしも事務所側や制作委員会にキングレコードのような金権主義者がいたらと思うとゾっとする。
作品破壊はナナマルサンバツのような演技破壊型や乙ぼく騒動のような声優総取り替えによる世界観破壊型が一般的であったが今回の事例は近年稀に見る珍しい作品破壊例 (未遂) と考える。
たとえ演技が良くても原作への口出しは慎まねばならない。

[*12] システムたる典型的な例は声優のためにアニメが作られるようになったこと。主従で言えば、従だった声優が主になったという点から見ても『システム』要件を満している。

3. ベテランが憂いを呈する

ベテラン三石琴乃氏がニュータイプ誌上のインタビューにて現在の声優事情について憂いを示している。
簡単に要約すると 1 クール物ばかりになってしまい新人が成長する熟成期間がない (3 ヶ月では一つの役が完成しない)。また技量よりも写真審査が優先されたりキャラソン・イベント出演が可能な人、SNS をやっていないと選考から落選する。さらにラジオや作品関係のイベントでも時間が取られてしまい、あっと言う間に年齢ばかり加算してしまう点など昨今の声優事情の憂いを語っていた。
演技は当然であるが、多くの仕事をこなしつつ、映像でも生え、SNS もする。そして唄って踊れるってスーパーマンかよ、と思えるが今の声優業界はそれを求めているのだろう。

また、桑島法子氏も別のインタビューにてアイドル活動時の違和感を語っていた。桑島氏の場合は心情が顔にモロに出ていたんでイヤイヤやっていたのは当時から傍から見ても分っていた。
そんな経験からアイドル化には疑問を感じて声優としての柱が必要と感じ朗読を始めたという。

いずれも第 3 次声優ブームの真っ只中にいた御仁である。この人達の言葉は非常に重い。

4. モバイルゲームは声優を救うか

上記の三石氏はモバイルゲームにも言及している。
モバイルゲームはアニメよりもギャラが多いとのこと。母数も増えて来ているので声優需要も多くアニメよりそちらに出るパターンが多くなっているようである。

声優業で喰える人はほんの一握りと言われている。そのため多くの声優はアルバイトが必須であるが、副業より芸を磨く時間がない弊害も昔から指摘されている。
ギャラが良いということはその分、勉強する時間に割くことができると三石氏は指摘してしている。

モバイルゲームは営業的なイベントも殆ど無く声だけで勝負をすると言う意味では声優の原点復帰かつ救世主なのかもしれない。
~~老害~~古い考えの人は苦労してこそとかハングリー精神とか根性論を言い出すが、しなくていい苦労であれば、しないに越したことはない。寧ろ、金銭的、時間的余裕があれば芸を磨いて欲しいと思う。
もしかすると今後はモバイルゲームがセーフティネットの役割や声優の登竜門となるかもしれない。
ただ、ゲイム会社も慈善事業をやっている訳ではない。無名声優をいきなり使うとも思えないので、ある程度の知名度は必要かと思われる。また声優インフレの今、どこまで救えるのか問題ではある。

5. 属性声優の末路

上坂すみれはデビューした頃、お嬢様とかロシア好きという声優としての特徴以外に尖った属性で耳目を集めていた。しかし、最近ではその属性も薄らいで飽きがきている嫌いがある。純粋に声優としての技量で言えば他の声優と大差がなく属性で持っていたと言ってもいい。
差別化が困難な昨今、属性で特徴付けする傾向が多かったが飽きが来やすい諸刃の剣である。

6. 巨大プロジェクトが生む壮大な一発屋

ラブライブは第一期が大成功を収め、二期も概ね成功を収めようとしている。が、このラブライブを始めとした巨大な複合アイドルプロジェクトは壮大な一発屋を生む危険を孕んでいると思う。
構成メンバーはプロジェクトにかかわっているウチは個人としても充実しているであろう。しかし、そのプロジェクトが終わったらどうなるのか。アイドルアニメで集合した人たちは、ごく一部を除いて専用の仕事しかしていない。イベントで多忙な時に修行ができない。すると芸が磨けず途端に溢れてしまう。そう言う意味で鈴木愛奈は多忙な中でよくやっていると思う。

その先例が Wake Up Girls(以下 WUG) である。規模こそラブライブ程ではないが基本的な構造はほとんど同じ。風前の灯の中、あのプロジェクトの中にいた人達はどうするのか。恐らくは大多数の中に埋もれてしまうだろう。
またまだ本格的な活動をしていない 22/7 も基本的には WUG と同じ道を辿りそうな予感がする。
まぁ、秋元＋ソニーなので WUG より上手くやるとは思うが、その先にあるものが全く見えない。

いずれにせよ、アイドルアニメが元になっているグループに属する人々は大変脆い存在である。
桑島氏の言うような柱というものを見つけられないとプロジェクト終了と同時に声優業も終了という憂き目にあうだろう。アイドルアニメはリソースを喰い潰して後に何も残さないハゲタカのような存在だ。

7. 深刻な人材不足が来る

今年の声優アワードの新人賞は酷いものであったが、仮にあの結果が厳選された結果だとすると別の見方から**あの程度の新人しかいない**ことになる。この声優インフレにもかかわずだ。これは深刻な人材不足と考えなくてはならない。

単に「役者」としての覚悟や自覚が足りないのではないかと思う。写真集や歌手デビューとかおよそ声優の本業から外れているし、そもそも 1 クール物ばかりになってしまい熟成期間がない。そう考えると人材不足感は否めない。

あと新人声優を短期間に集中して作品にぶっこんで来るのはどうかと思う。
7 月期で大沢事務所の新人である島袋美由利が 4 作品に主役級で出演して話題となった。技量的には非常に有望株とは思う。しかし、短期にこれだけ違う作品をすることがホントに良いことだろうか。同じ期間に複数の作品で別の役をせにゃいかんとなると一つの役を完成できないまま 1 クールが終ってしまう。売り出したい新人を推して来るのは心情的には理解できる。しかし、貴重な原石の磨き方を誤ってしまうと育つものも育たなくなってしまうのではないだろうか。見え方によっては「ゴリ押し」にも見えるし、あまり良いようには見えない。

8. 今回のまとめ。

- 現代声優はスーパーマンでなければならない。
- モバイルゲームは現代声優の救世主。
- アイドル声優ユニットは脆く、アイドルアニメはハゲタカの如く何も残さない。
- 無理なぶっこみ方はやめましょう。

連載記事

5　Chairman's free talk -議長放談-

TCVV 議長

1. 上田麗奈

定期的に CD を出すがいずれも話題にならず、写真集も出すがそれも話題にならず、
一体どこに行こうとしているのか全くもって不明だ。ここまで迷走する人も珍しい。

2. これが声優？

本年 4 月中西優香という人が結婚 (ご報告) を発表した。
が正直、誰だ？と思ってしまった。
全く知らなかったんで調べたら声優と言うにはお粗末なレヴェルでしか活動していない。
このレヴェルで声優と名乗るのかと愕然とした。声優をなめているのかと。

3. アイドルの声優化はやめていただきたい

ナナマルサンバツの棒読み声優こと川島海荷。生粋の声優ではなく 9nine というアイドルグループの元メンバー。川島海荷の採用のきっかけは同じ 9nine の佐武宇綺の成功であると言われている。いずれも声優化アイドルである。
しかし、この佐武宇綺だって正直上手くない。短いセリフではあまり気にならないが長回しのセリフは棒が目立ってくる。
BEATLESS を観ていた時、素人が演技しているのかと思ったくらいである。ホント、アイドルの声優化はやめてもらいと切に思う。超下手なんだよ。

4. 徳井青空の響退所の衝撃

てっきり死ぬまで響に在席するものと思っていただけに軽く衝撃を受けた。
ミルキーホームズでデビューした後、ラブライブで出世し、さらに漫画家デビューも後押しした大恩ある響ををあっさり去るとは思わなかった。
何か思う所あっての退所だとは思うがこれまでの実績は響の後押しがあってこそだと思うので、この選択は果して正解なのだろうか。
このままぬるい飼い殺しを嫌って一旗揚げようとしているのかも知れない。

5. ドル売りリスク

最近、悠木碧、田村ゆかりが Twiter 上で心境を吐露していた。平たく言えば私は結婚できるのだろうかという呟きだ。
SNS が発達して個人の思うところがダイレクトに伝わり色々な問題点が浮き彫りになった。
アイドル声優として活躍すればするほど結婚から遠退くというリスクを昨今の脚光を浴びたいだけで声優になろうとする人は理解できるのだろうか。

編集後記

本誌をご高覧頂きありがとうございます。
今年前半は村川梨衣による ISLAND 問題や声優アワードの新人賞問題など我々声ヲタにとって色々とあったと思います。
その ISLAND 問題。
ゴネしょんとか揶揄されるくらいなのだから内容に相当な問題でもあるのかと思って本編を見ました。しかし問題があると内容とは全く思えませんでした。これを村川梨衣側に好意的に解釈するのならば他のメインキャラが何週かかけて話が深まってゆくところを、たった 1 週で終ってしまったのが不満だったのかと。
思い入れがあるキャラや作品であれば、そう思ってしまうのかも知れません。逆に考えれば現在の声優なんて 3 ヶ月スパンで役が変ってしまうし、売れっ子であれば次々と入る仕事の内容なんて思い入れなんてあるハズない。そんな中、作品を深く愛してくれる声優であれば我々、作品重視の人間からすれば大変貴重な存在です。どこを向いてどこに行こうとしているか分らん似非声優よりよっぽどマシだとは思います。しかしながら、原作側に変更を求めるのは筋が違います。役者は与えられた枠の中を越えてはいけないと考えます。不可侵なのです。

さて昨今、1 クール毎にアイドルアニメがあります。我々、視聴者はお気楽に見ていればいいのですがアイドルアニメでデビューした人々は恐らく、3 年も持たずにその他大勢に埋もれてしまうでしょう。ようやく活動を始めた 22/7 も多分そうなると予想しています。特定の作品に依存した状態にいながらファンクラブ結成とか写真集の出版とかやっている場合ではないと思うのですがね。
アイドルアニメ用に製造された声優らしき人 (アニメタレント) は方向性がまったく違うので「声優」ではなく「声優化アイドル」という別物として認識し考える必要あると考えます。
そう言う点を踏まえ TCVV はアイドルアニメでデビューした人達がその後、どうなったのか長期観測もしたいと思います。

また今後はアイドル声優のリスク面についてより深く考えたいですね。
ドル売りはベテラン不在を招くという他にメンタル面も壊してゆくということがわかりはじめてきました。我々も予想すらしていないものです。SNS が広く普及した現在、メンタル面での不安定さを露呈することが増えてきました。アイドル活動してきたツケが回って来たと言えばそれまでですが、自己責任という問題で片付けてはいけないものと考えます。アイドル化を推し進めてきた業界の責任は皆無ではないと考えると同時に、これからアイドル声優として脚光を浴びたい人々はそのリスクを評価して挑んでゆくべきと考えます。

本誌で毎回算出しています TCVV 短観については今後集計方式を見直しより実情を反映した形にしたいと考えています。方式はいくつか案はありますので次回以降に試行しながらやって行こうかと考えます。
新しい TCVV 短観に是非ご期待いただければと思います。

あと今回、TCVV としては珍しく声優のファンクラブについて調べました。今後も深く調べてゆきたいと担当者も申しております。

そんなことを考えつつ次回は盛り沢山の内容でお送りできればと思います。ではまた。

2018 年 8 月 8 日 TCVV 議長 萱沼真一

TCVV 白書 第 20 号 通巻 23 号
発行 「声優は Visual に出るな!会議」情報管理部
組版 LaTeX2e (Cloud LaTeX)
発行日
2018 年 8 月 11 日（初版）
連絡先
「声優は Visual に出るな!会議」
代表者　萱沼真一
URI http://www.tcvv.org/
E-mail info@tcvv.org
Twitter http://twitter.com/tcvv
Copyright (C) 2018 The council of ‘Voice actors should notappear in Visual’